

野生動物（シカ）から農作物を守ろう！

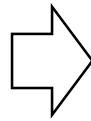
1. 農業被害の現状

我々は、第一次産業（農業、林業、漁業）によって、安全安心な「食」が支えられています。しかし近年、全国の野生鳥獣による農作物の被害が増加しており、特にシカによる被害が、農林水産省のデータによると約 65 億円（令和 4 年度）とワースト 1 位なのです。

シカといえば、可愛くて愛嬌のあるイメージですが、実際は農業の天敵であり最優先で対処する必要がある動物なのです。



可愛いイメージ



実際は…



農業被害拡大

2. 自分がやりたいこと

自分は、実家が農家であること、大学で野生動物の生態学を専攻していたこともあり、野生動物を守りたいと同時に農業被害も無くしたいとも思っています。

そんな自分ができることは、増えすぎたシカの個体数をきちんと維持管理することだと思っています。しかし、現在のシカによる農業被害防止策として実施されている事例は①～④になります。

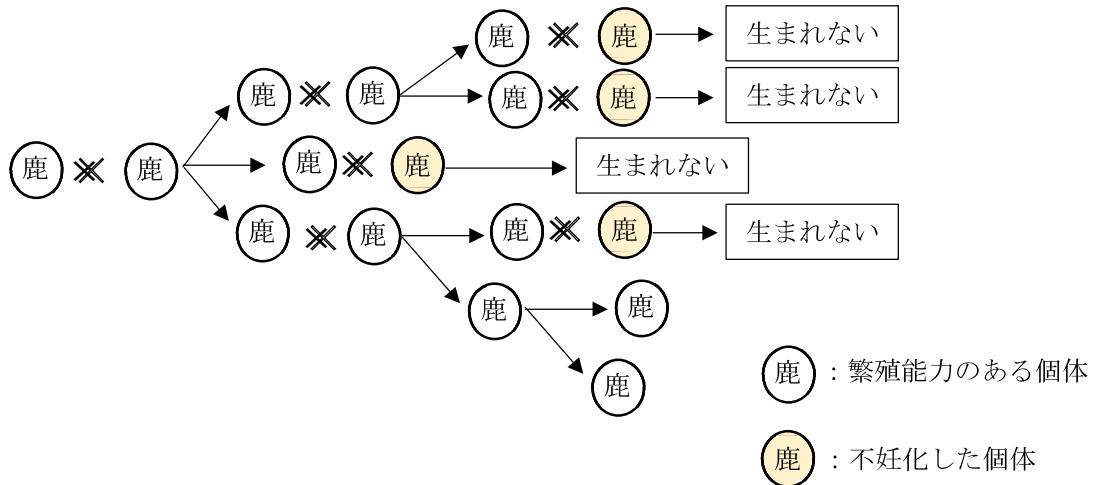
- ①電気柵・侵入防止フェンスの設置
- ②シカの隠れ場となる藪の刈払いや間伐などの対策
- ③樹皮への防護ネット巻付け
- ④猟師・トラップによる捕獲



①～④に手法では、シカの繁殖力に追いつけず、年々個体数が増える一方です。なので僕が提案するのは、「**不妊シカによる維持管理**」を提案します。

3. 不妊シカとは

不妊シカとは、捕獲したシカを不妊化して野外に放すという管理方法です。野外に放したシカは、交尾しても子孫は生まれなため、個体数は減少します。これを十分に続ければ、増加は抑制できると考えます。



歴史の中で、成功した事例をいくつかあげます。成功の多くは昆虫類です。

■ 沖縄のウリミバエ

キュウリやゴーヤーなどウリ類を中心とした果実を幼虫が食い荒らす害虫。台湾から侵入した外来種。1986年に開始され、1990年には根絶に成功。



■ 沖縄のアリモドキゾウムシ

サツマイモの食い荒らす害虫。2002年に開始され、2013年には根絶に成功。2022年に静岡県浜松市で発生が確認されたことで、一部の地域ではサツマイモの栽培が禁止となった。



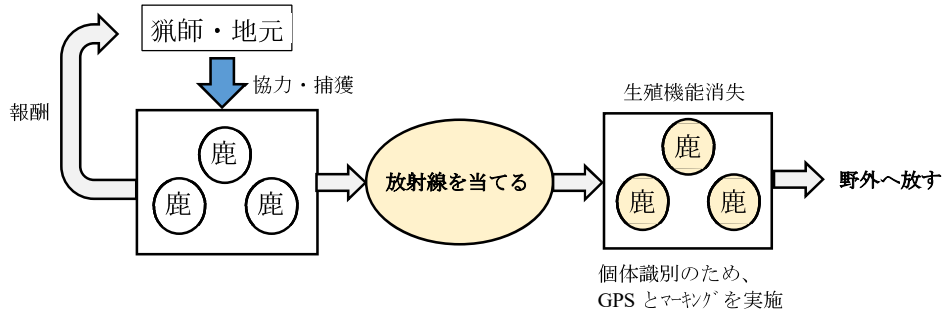
4. 管理方法

誕生した個体には、マーキングまたはGPSをつけて、生息域や分布状況をモニタリングします。家畜のように人間が管理するわけではなく、野生に逃がすことへの影響が未知数であるため、学識者の意見も取り入れながら、段階的に実施します。

まずは、隔離された地域（北海道、四国、九州、離島）から試験的に実施し、効果や影響の程度を把握していきます。

5. 不妊化方法

不妊化には、基本放射線を使います。生殖細胞は他の細胞に比べて放射線に弱いため、機能を低下させることができます。そのため、不妊シカの体は元気だが生殖機能がない個体が誕生する。



6. 課題とその対策

6-1 風評被害への対策

シカは、日本人にとって可愛く、愛すべき野生動物であるため、保護目的の愛護団体も多いです。そのため、人工的に放射線を浴びさせることに反対される恐れがあります。

それに対しては、奈良県の「奈良のシカ保護管理計画」を参考にして、保護地区と管理地区に区分の設定を行い、適切に管理基準マニュアルを策定することで、地元住民とのトラブル防止に努めます。



奈良県：「奈良のシカ保護管理計画の策定について」を抜粋

6-2 ジビエ（食用シカ）として食用になるリスク

ジビエとは、狩猟によって捕獲した野生動物の肉のことを指します。シカ肉は、高たんぱく質で低カロリーな赤身が特徴で、飲食店やお土産屋でも販売されるくらい人気商品です。

不妊シカを誤って食べてしまった場合、健康リスクが問題になる可能性があるため、不妊シカにはマーキング（全身に色を塗り、狩猟者へ警告）を行い周知します。